



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— 趣味と科学の目を大切に、推進員活動をしていきます!! —

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

■郡山市民アマチュア無線実行委員会

福島県地球温暖化防止活動推進員の佐久間光好さんは、「趣味と科学の目」が大切ですと話します。

「無線が趣味です。無線愛好家の仲間と、郡山市制施行100周年を記念して無線局を開設しました。」郡山市と姉妹都市になっている奈良市、久留米市、鳥取市やオランダの都市など、国内外1万5247局と交信し、郡山市の魅力を発信しました。「南極の昭和基地とも交信できました。」

■推進員になつたきっかけ

2005年に環境カウンセラーに登録し、環境保全の活動を始めました。環境教育を実践していくために、環境教育インストラクターの資格も習得しました。

地球温暖化や気候変動のことをもっと学ぼうと考え、東日本大震災の前の年に福島県地球温暖化防止活動推進員になりました。田村市船引町に、体験の機会の場制度を利用して、福島県認定第1号の「里山林・自然

塾」を立ち上げ、小学生を対象とした環境教育に力を入れたそうです。四季折々の植物の花や葉っぱ、実の観察や竹とんぼを作り飛ばして遊ぶことで、学びを深めたといいます。「ものを作り遊ぶということは、すぐく印象に残るようです。」

■古代湖「郡山湖」

「今の郡山市から矢吹町あたりまで、10万年前は湖でした。『郡山湖』と呼ばれています。」海底が隆起し郡山湖ができ、地層を調べると2万年前には泥などで埋まってしまったようです。磐梯熱海の地層からは、マンモスの歯や貝の化石が出土します。三穂田町には鯨という地名が残っています。

「地球の歴史を趣味のように楽しみながら、科学の目で観察することが大事なんです。」

■みんなのできる地球温暖化防止活動

佐久間さんは、「地質汚染診断士」という珍しい資格を持っています。「竹を高温で熱し竹炭を作り、多孔質を利用して土壌を汚染している物質を吸着させ、セメントミルクで固めてしまおうという工法を開発しました。」地球温暖化の問題も、毎日の生活の中での気象の異変について、どうしてそのようなことが起こるのか疑問に持つことが大切だと、強調します。

「疑問の次は、実践です。」

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>